



企画にあたって

池田隆徳

(東邦大学大学院医学研究科循環器内科学教授)

経循環器診療において、不整脈疾患への対応は大きなウエイトを占めています。不整脈疾患は大きく徐脈性不整脈と頻脈性不整脈に分けられますが、頻脈性不整脈については日常診療でどの治療法を選択するか迷うことがよくあります。薬物治療だけでなくカテーテルアブレーションが選択肢としてあり、どのような場合にカテーテルアブレーションの適応としたらよいか、専門医においても意見が分かれることがあります。ご存じのように、薬物治療はいわば抑制療法にすぎませんが、カテーテルアブレーションは根治療法です。

近年、日欧米の学会から「不整脈治療に関するガイドライン」が発行され、カテーテルアブレーションの適応についての指針が示されています。それぞれのガイドラインで記載事項が微妙に異なることがあり、どう解釈したしたらよいかのディスカッションが行われています。また、インパクトの高い臨床試験の結果がいくつか出され、アブレーションのあり方に変化が生じてきています。そこで、本特集をとおして、カテーテルアブレーションの治療方針について改めて整理して考える機会を設けました。

まず「診る」として、検査法の種類別による頻脈性不整脈患者の診かたと近年注目されている三次元マッピングシステムについて解説していただきました。次に「識る」として、カテーテルアブレーションの適応になることが多い心房細動、発作性上室頻拍、心室頻拍について、日欧米の診療ガイドラインでの適応を解説していただきました。加えて【Expertise】として、カテーテルアブレーション治療に関する放射線被ばくと最近出された主な臨床試験について取り上げてみました。最後に「治す」として、最近話題を集めている心不全合併心房細動、特発性心室頻拍、器質的心疾患に起因した心室頻拍、Brugada 症候群、ハイブリット治療としての心房細動におけるカテーテルアブレーションを、自験例を示しながら解説していただきました。

本特集を読んでいただくことで、日々の不整脈診療においてカテーテルアブレーション治療を選択するうえでの一助になればと考えております。